

2月3日

## 校長講話 「つなぐ」

全校の皆さん、おはようございます。振り返ってみると、1月は、新型コロナウイルスの感染が広がったり、学年や学校が閉鎖になって友達と会うことができなかつたりと、寂しい日が何日かありました。でも、今、多くの皆さんが元気に手良小学校に来ることができるようになり、本当に喜んでいきます。

さて、今年度はあと何日登校できるのか知っていますか？間もなく6年間の小学校生活を終えようとしている6年生は分かっていると思います。今日と卒業式を入れて28日です。月日はどんどんと過ぎていきます。

そこで、今回は、「手良小学校の子どもたちや先生方が替わっても、リレーのバトンのように「つないでいく」事についてお話をします。どんなことが思い浮かびますか？



全校でカレーを作ったり地域を歩いたりする「秋の自然に親しむ日」は、平成14年、今から約20年前に始まりました。初まりは、5年生だけの飯ごう炊さんでした。それが全校で楽しく過ごす1日になってきました。今年はカレー作りと仙丈班での遊びをしました。とても楽しい1日でした。

もっと古くから始まっている事があります。「手良太鼓」です。今年も6年生が迫力のある演奏を聴かせてくれました。1～5年生も太鼓の体験をしましたね。この「手良太鼓」の初まりは、今から24年ほど前、平成11年でした。地域の皆さんが3年間ほどかけて太鼓を買うお金を集め、この年にたくさんの太鼓を購入しました。その時は、2年生が太鼓の練習をして、秋の音楽会に演奏したそうです。名前も「ふれあい太鼓」といいました。この太鼓には、「手良だから手を使い良いことを行い、地域の人々が生き生きと元気に暮らせるように」との思いが込められていました。だから、子どもたちだけでなく、地域の皆さんも太鼓を叩き、地域が団結していきました。



この手良太鼓より2年ほど前に「親子ふれあいトンカチ教室」が始まっています。今年も大勢の子どもたちやお家の方が集まり、トンカチで釘を打ちながら、すてきな椅子を作りました。作った後に手良太鼓の演奏もあって、長い年月にわたってつないできた伝統を感じました。

手良小学校には、太鼓やトンカチ教室よりも長い歴史のあることがあります。さあ、何でしょう？ 近くの人と相談してみてください。

【考えタイム】

思いついたことがありますか？ ヒントを出しましょう。

ヒント1「運動会に関係があります。」

ヒント2「5年生が上手です。」

もう分かりましたね。そうです、「トランペット鼓隊」です。



トランペット鼓隊は、今から38年前、昭和60年に始まりました。私が大学生の頃なので、かなり昔です。トランペットや太鼓、ユニホームなどは、当時の県会議員の「登内英夫（このうちてるお）」さんが、全て寄付してくださいました。登内さんは、手良沢岡の出身で、信英通信工業

（ルビコン）という会社の社長さんでした。トランペット鼓隊は、その年の運動会で初めて演奏しました。メンバーは、6年生は全員で4、5年生は希望者で、全体で60名ほどでした。大勢の子どもたちが関わりました。楽器などの贈呈式も行われ、その中で登内さんは、「この楽器を使って、手良の皆さんが明るく元気に育つ。将来、日本、世界のどこへ行っても、社会に役立つ人になってほしい。」と挨拶をされました。登内さんは、残念ながら6年前にお亡くなりになりました。登内さんが亡くなっても、トランペット鼓隊が登内さんの思いをつないでいます。



今日は、「手良太鼓」「トンカチ教室」「トランペット鼓隊」と、手良小学校で続けていること、皆さんがつないできたことについて話をしました。どれにも、この手良で生活してきた地域の人々の願いが込められています。皆さんは、これらの物事を通して、地域の人々の想いや願いをつないでいるので

す。新しいことにもどんと挑戦してほしいですが、手良小学校の伝統を、これからもつないでいきたいと思いました。